取扱説明書

運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

GYRO X

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。
GYRO X （ BB－TD01 型 ）:
平成10年排出ガス規制適合車

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。
この車は、第１種原動機付自転車です。

★乗車定員
この車の乗車定員は、運転者のみの１人です。

取扱説明書について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。
「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★この取扱説明書は、ウインドスクリーンおよびリヤキャリア装備車を中心に説明してあります。

安全に関する表示について

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

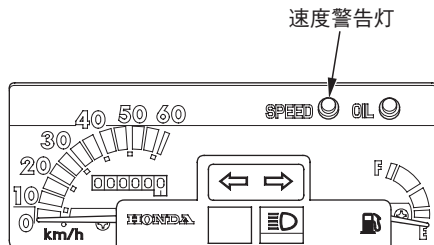
⚠危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

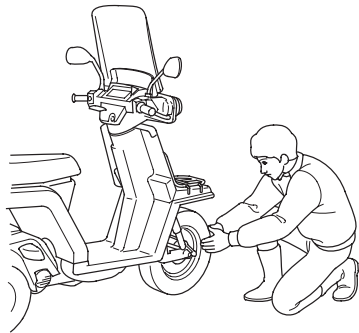
★その他の表示

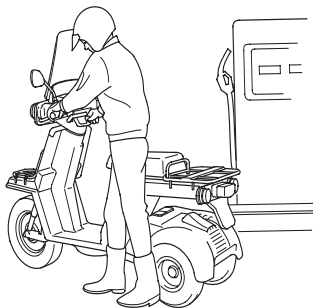
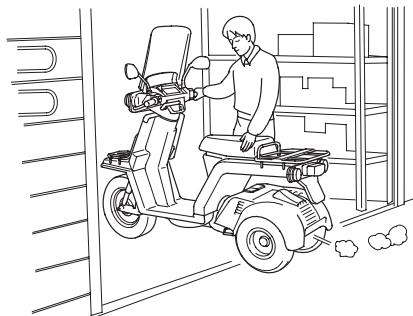
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと
知　識	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと

目　次

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

● スピードメータ部に速度警告灯が装備されています。
車の速度が法定最高速度(30ｋｍ／ｈ)を越えると速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。

運転する前に

- 日常点検を行ってください。
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
  日常点検は、49 ページ参照。

- 定期点検を実施してください。
  定期点検は、52 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

服装

- 運転者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
  ヘルメットは二輪車用でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
  - フェイスシールドまたはゴーグルの使用
  - くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
    —二輪車用ブーツが望ましい
  - 摩擦に強い皮製の手袋の着用
  - 長ズボンと長袖のジャケットの着用
    —明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
    —すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキ操作などの運転動作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

⚠警告

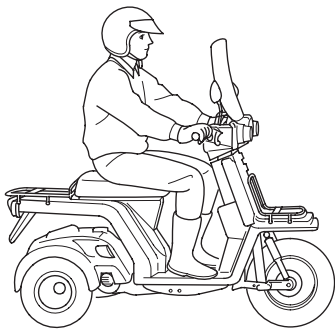
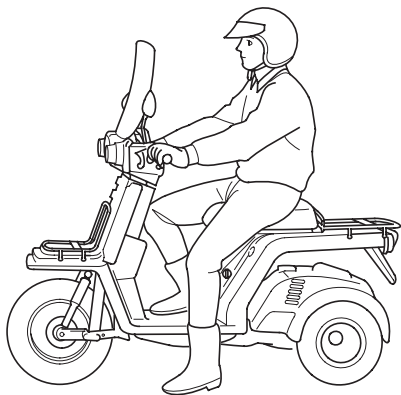
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

乗りかた

● 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。

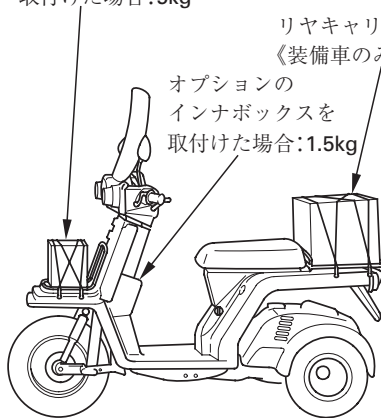
● 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。

これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。

- ゆっくりスタートし、足はすばやくフロアに乗せてください。
  足が後輪に接触すると、思わぬ事故をまねきます。

- 悪路走行
  凸凹の路面を走るときは、バランスをくずさないように十分にスピードを落して走行してください。また段差がある場合には、車体がはねないようにゆっくりと走行してください。

- 雪道や凍った道はすべりやすくなっています。必ずタイヤチェーンまたはスノータイヤを装着し、ゆっくり走ってください。
  タイヤチェーンのお求めはHonda販売店にお申しつけください。

荷物

- 荷物を積むと、積まないときにくらべてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積みすぎると、ハンドルがふられ運転を誤ることがありますので、積みすぎに注意しましょう。

- 荷物の積載は下記重量までです。

- 荷物を高く積み過ぎると走行中に風の影響を受けたり、カーブでバランスを失うことがあります。

- 荷物はしっかりと固定してください。

- オプションのフロントバスケットやインナボックスから荷物がはみ出したり、前照灯(ヘッドライト)をふさがないようにしましょう。ハンドル操作や、前照灯の照明に支障をきたすことがあります。

- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。

- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。

- 荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。

- オイルタンクキャップのまわりに布等を置かないでください。オイルタンクキャップの空気穴をふさいで、エンジンオイルの給油が悪くなり、エンジンが焼付くことがあります。

- エンジンカバーとプラグキャップの間に物を入れないでください。入れると走行に支障をきたすことがあります。

改造

- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
  不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
  このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成10年排出ガス規制適合車です。
  排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。
  また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。
  マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

駐車

駐車するときは

盗難防止のため、車から離れるときは必ずパーキングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

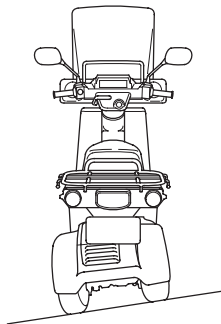
- 水平でしっかりした地面の場所に、車体を垂直にし、パーキングロックをかけ駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

⚠注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

傾斜地での駐車について

やむをえず傾斜地で駐車する場合は、パーキングロックのスイングロック機構を利用し車体本体を垂直にしてください。
パーキングロックについては、27ページ参照。

触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。
触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の３つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

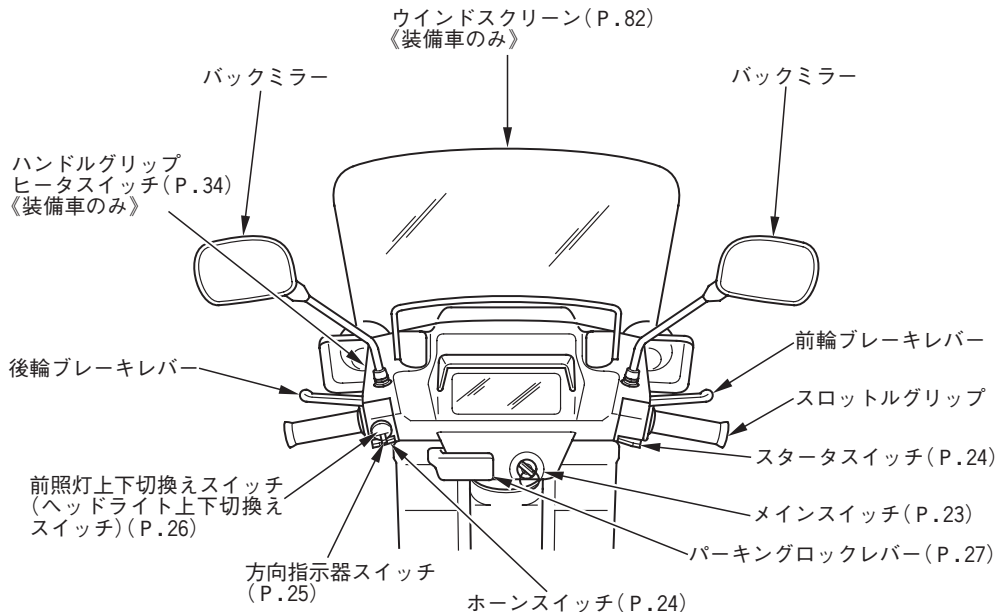
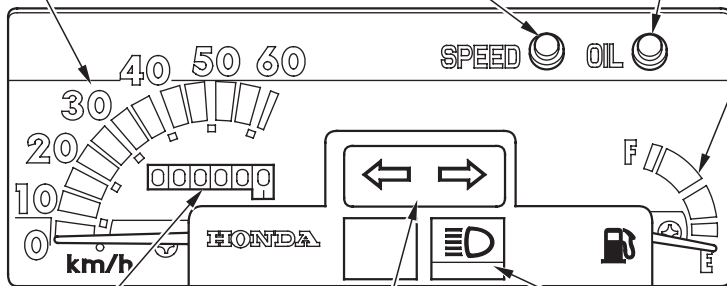
不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

《不適切な取扱いの例》

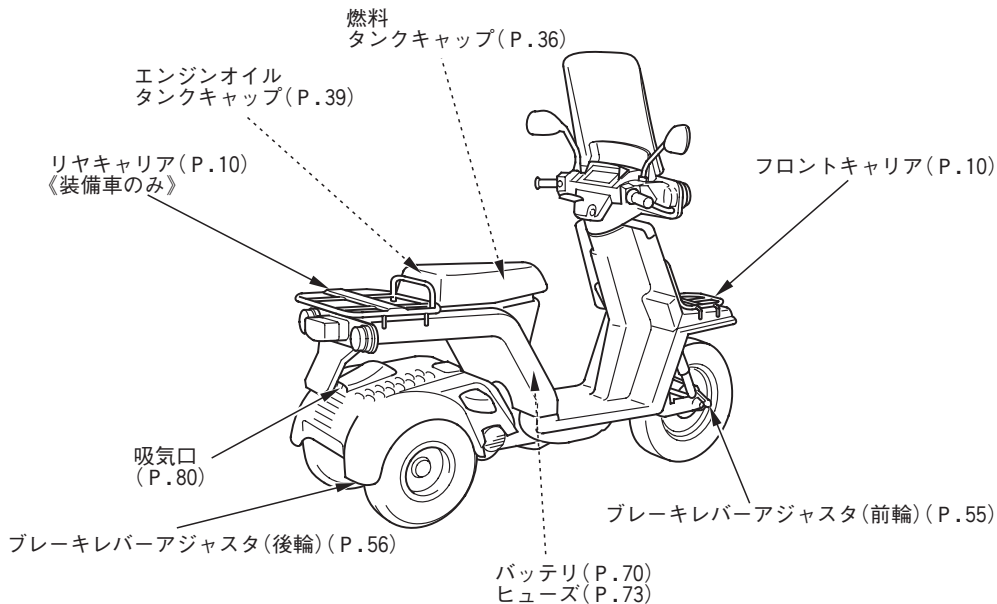
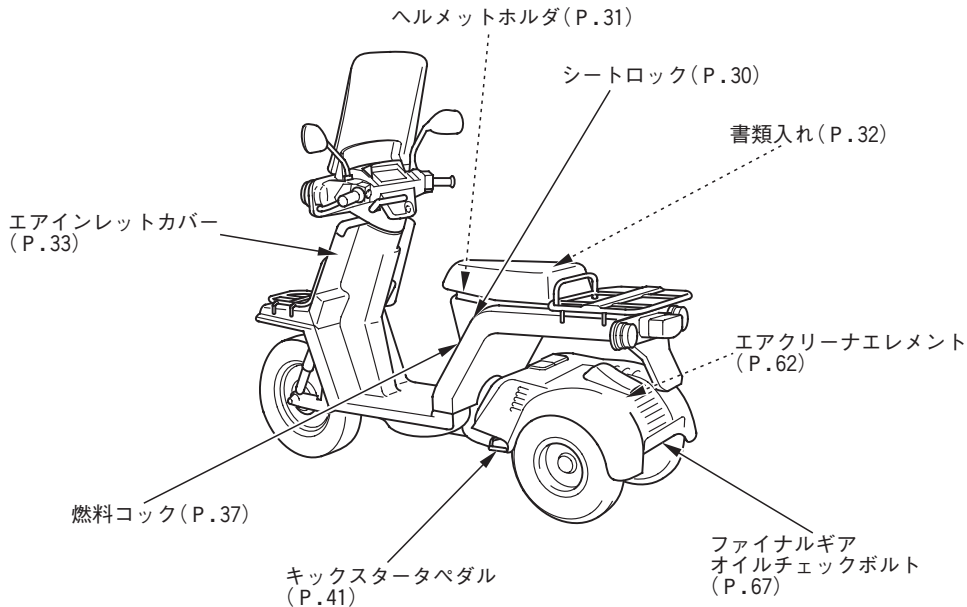
- 走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
- エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので次のことをお守りください。

- 燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
- 定められた点検整備を実施してください。
- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ウインドスクリーン(P.82)
《装備車のみ》
バックミラー
バックミラー
ハンドルグリップ
ヒータスイッチ(P.34)
《装備車のみ》
前輪ブレーキレバー
後輪ブレーキレバー
スロットルグリップ
スタータスイッチ(P.24)
前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換え
スイッチ)(P.26)
メインスイッチ(P.23)
パーキングロックレバー(P.27)
方向指示器スイッチ
(P.25)
ホーンスイッチ(P.24)

速度計
（スピードメータ）（P.20）
速度警告灯（P.22）
オイル残量警告灯（P.21）
燃料計（P.20）
40 50 60
30
20
10
0
km/h
SPEED
OIL
F
E
HONDA
積算距離計（P.20）
（オドメータ）
方向指示器表示灯
（P.22）
前照灯上向き表示灯
（P.22）

各部の名称

燃料
タンクキャップ（P.36）
エンジンオイル
タンクキャップ（P.39）
リヤキャリア（P.10）
《装備車のみ》
フロントキャリア（P.10）
吸気口
（P.80）
ブレーキレバーアジャスタ（前輪）（P.55）
ブレーキレバーアジャスタ（後輪）（P.56）
バッテリ（P.70）
ヒューズ（P.73）

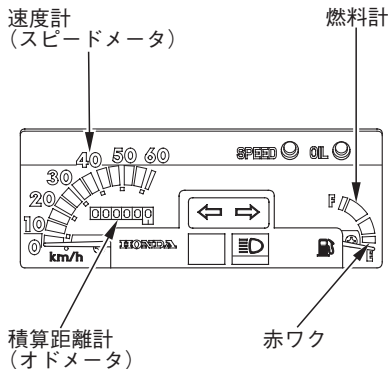
ヘルメットホルダ(P.31)
シートロック(P.30)
書類入れ(P.32)
エアインレットカバー
(P.33)
エアクリーナエレメント
(P.62)
燃料コック(P.37)
ファイナルギア
オイルチェックボルト
(P.67)
キックスタータペダル
(P.41)

計器類

速度計(スピードメータ)
走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)
走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100 mの単位です。

燃料計
燃料タンク内のガソリンの量を示します。
指針が赤ワクに入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。

燃料計の指針が赤ワクに入りかけたときの燃料有効残量 ： 約1.5 ℓ

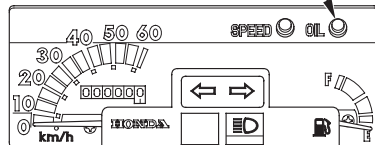
ガソリンの補給は、35ページ参照。

警告灯・表示灯

オイル残量警告灯

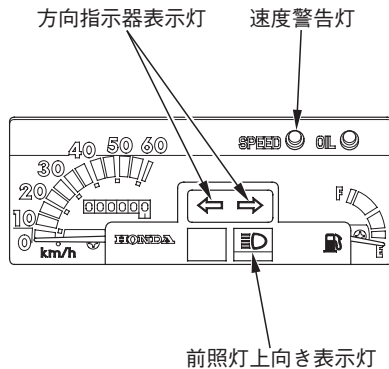
オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、できるだけ早目にオイルを補給してください。

オイルの補給は、38 ページ参照。

アドバイス

- オイルは切らさないでください。オイル残量警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

速度警告灯
速度が30ｋｍ／ｈを越えると、点滅します。

方向指示器表示灯
方向指示器が点滅しているときに点滅します。

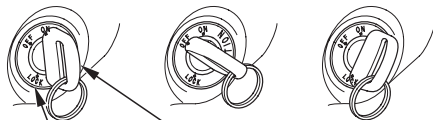
前照灯上向き表示灯
（ハイビームパイロットランプ）
照射角が上向きのときに点灯します。

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動・走行 ● ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 ● 電気回路を全て遮断する	抜けない
LOCK	パーキングロックレバーを固定する。 ● 電気回路を全て遮断する。	抜ける

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

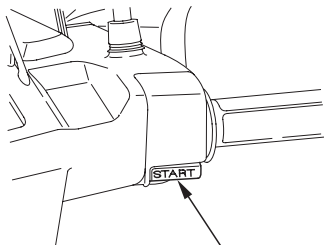
知　識

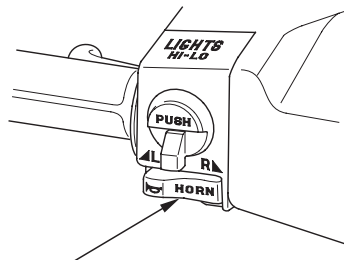
- パーキングロックがかかった状態で“LOCK”にできます。
- 車を離れるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

スイッチの使いかた

スタータスイッチ

メインスイッチのキーを“ON”にしてブレーキレバーを握り、スイッチを押すとエンジンがかかります。

知 識

- ブレーキをかけた状態でないとエンジンはかかりません。

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

方向指示器スイッチ

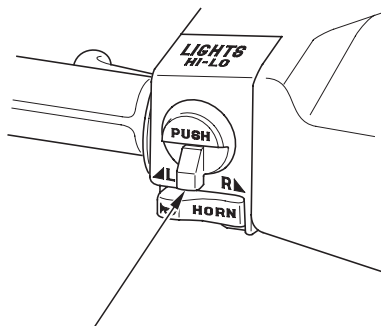
右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》
メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

R…右に曲がるときに操作します。
L…左に曲がるときに操作します。

解除は、方向指示器スイッチを中央にして行います。

知 識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

方向指示器スイッチ

前照灯上下切換えスイッチ（ヘッドライト上下切換えスイッチ）

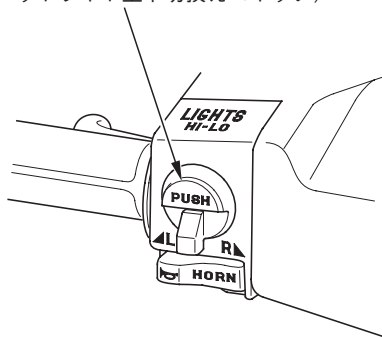
前照灯(ヘッドライト)の照射角を上下に切換えるスイッチです。
前照灯の上下切換えは、スイッチを押して行います。

（上向き）

HI ‥‥ 遠くを照らしたい場合に使用します。

（下向き）

LO ‥‥ 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適当なときは、下向きにしてください。

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

パーキングロック

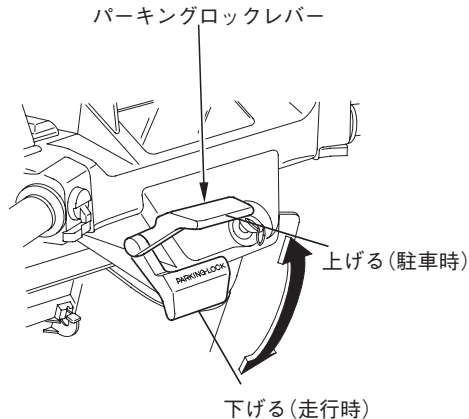
この車には、駐車時に使用する、パーキングロックが装備されています。

駐車するときは、パーキングロックレバーを操作し、必ずパーキングロックをかけてください。
パーキングロックをかけないと車が転倒します。
また、パーキングロックをかけた状態で、メインスイッチを“ＬＯＣＫ”にすると、パーキングロックレバーが動かなくなります。

知　識

- パーキングロックは、パーキング機構とスイングロック機構を備えています。どちらの機構もパーキングロックレバーの操作で作動します。
  - ・パーキング機構は、減速機を固定して後輪を回らなくします。
  - ・スイングロック機構は、後輪部分と車体本体がスイングするのを止めます。

走行中はパーキングロックレバーを操作しないでください。

⚠警告

走行中にパーキングロックレバーを上げると、後輪がロックすると共に車体がスイングしなくなります。これらは、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

走行中は、パーキングロックレバーを操作しないでください。パーキングロックレバーの操作は、車が完全に停止してから行ってください。

アドバイス

- 走行中や停止直前にパーキングロックレバーを操作すると、パーキング機構を損傷し、スイングロック機構に悪影響を与えます。パーキングロックレバーの操作は、車が完全に停止してから行ってください。

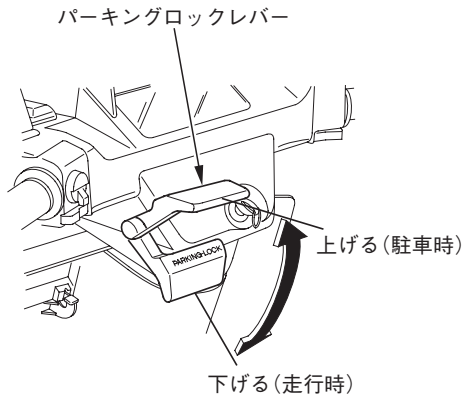
《パーキングロックのかけかた》

1．車体本体を垂直状態にします。
2．パーキングロックレバーを上げます。車体本体を左右に軽く揺り、車体が固定されたことを確認します。
3．メインスイッチを“ＬＯＣＫ”にします。

知 識

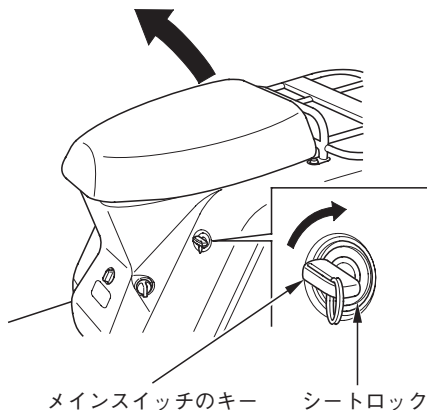
- スイングロック機構は、段階的に５箇所の位置（範囲）でロックできます。パーキングロックをかける時は、必ず車体本体を垂直に最も近い状態でロックしてください。
- 車をはなれるときは、メインスイッチのキーを必ず抜いてお持ちください。

《外しかた》

1．メインスイッチを“ＯＦＦ”または“ＯＮ”にします。
2．車体本体を保持しながら、パーキングロックレバーを下げます。

シートロック

《外しかた》
メインスイッチのキーでシート左下のシートロックを外しシートを開けます。

《かけかた》
1．シートを閉じ､上から押し下げてロックします。
2．シート後部を軽く持ち上げ､シートが確実にロックされたことを確認します。

知 識
- キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると､自動的にロックされ､キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- シートを閉めた後､完全にシートロックがかかったか確かめてください。
ロックをかけないで走行すると､走行に支障をきたすことがあります。

ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。
走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

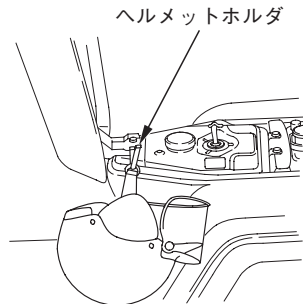
《使いかた》

1．メインスイッチのキーを使いシートロックを解除し、シートを開けます。(30ページ参照)
2．ヘルメットホルダーにヘルメットの金具をかけます。
3．シートを閉じ、上から押し下げてシートをロックします。
4．シートの後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

《外しかた》

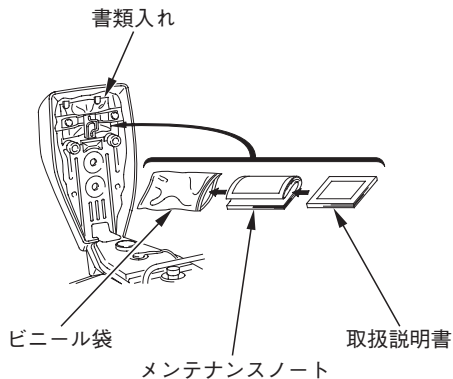
メインスイッチのキーを使いシートを開けて、ヘルメットを取外します。

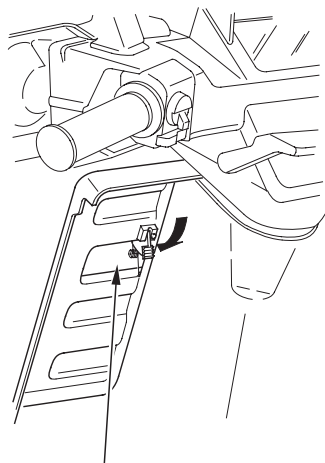
知 識

● キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。

書類入れ

シート裏側に書類入れがあります。
取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。
（シートの開閉は、30ページ参照）

知 識

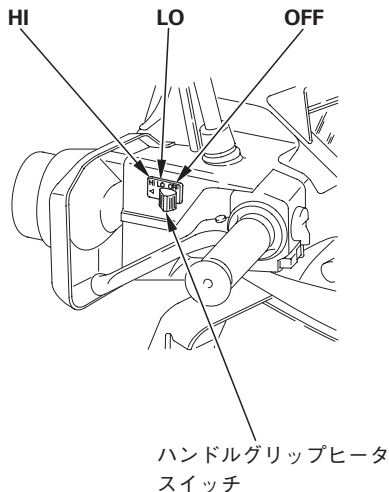
- 洗車時、書類の格納場所付近に強く水をかけないでください。内部に水が入ることがあります。

エアインレットカバー

レバーを下げると、エアインレットカバーが開きます。
閉じる場合は、レバーを持ち上げます。

ハンドルグリップヒータ

《装備車のみ》
使用するときは、手袋を着用してください。
外気温が20°C以上のときは、使用しないでください。

《使いかた》
エンジンを始動して、ハンドルグリップヒータのスイッチを“LO”から“HI”にします。
気温に合わせて“LO”、“HI”を使い分けてください。

走行中はハンドルグリップヒータスイッチの操作を行わないでください。

知 識
- グリップラバーが損傷した場合は、新しいものと交換してください。
- ハンドルカバーを使用するときは、必ずGYRO X専用のものを使用してください。

燃料とエンジンオイルの補給

燃料の補給

《使用燃料》
無鉛レギュラーガソリン

アドバイス
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。
  補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

⚠警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

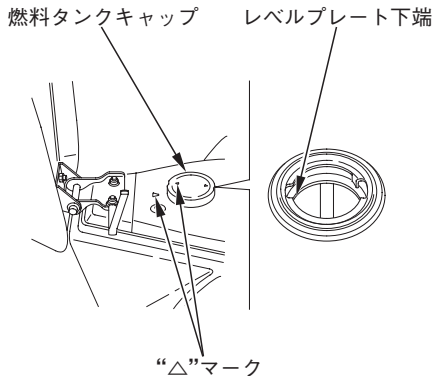
ガソリンを取扱う場合は、
- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、
- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行なってください。

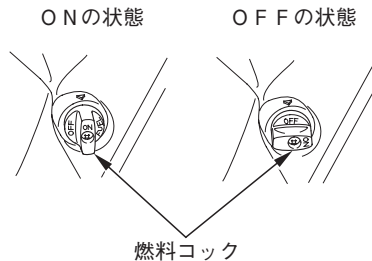
燃料とエンジンオイルの補給

《補給のしかた》

1．メインスイッチのキーを使いシートロックを解除し、シートを開けます。(30ページ参照)
2．燃料タンクキャップを左に回して外します。
3．ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。
ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
4．燃料タンクキャップを右に回すとしまります。タンクキャップの“△”マークと燃料タンクの“△”マークが合うところまで確実に回してください。
5．シートを閉じ、上から押して下げてロックします。
6．シート後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

燃料コック

レバーの位置が燃料コックの状態を示します。

ＯＮ　･･･ キャブレターにガソリンが流れます。
乗車するときは、コックがこの位置にあることを確かめてください。

ＯＦＦ･･･ ガソリンが止まります。
長期保管や燃料系統の点検・整備を行うとき、この位置にしてください。

エンジンオイルの補給

《推奨オイル》
Honda純正オイル(２サイクル二輪車用)

	ＪＡＳＯ　Ｍ　345規格
ウルトラスーパー ファイン	ＦＣ

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、JASO FC級をお選びください。
なお、JASO FC級オイルでも、特性が微妙に異なり、この車本来の性能が発揮できない場合があります。

アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

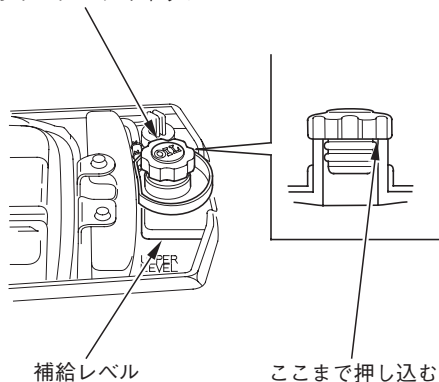
知　識

- JASO M 345規格とは、２サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。
  なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。

《補給のしかた》

1．メインスイッチのキーを使ってシートロックを解除し、シートを開けます。(30ページ参照)
2．オイルタンクキャップをおこすように引き抜きます。
3．オイルタンクの補給レベルまでオイルを補給します。

オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出るおそれがあります。

4．オイルタンクキャップを取付けます。キャップは2段モーションになっています。キャップを押し込むと重くなるところがありますから、キャップをその位置からもう一度、強く根本まで確実に押し込みます。
5．シートを閉じ、上から押し下げてロックします。
6．シート後部を軽く持ち上げ、シートが確実にロックされたことを確認します。

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

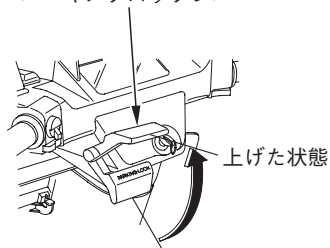
エンジン始動は、41ページの「始動手順」に従い行ってください。

- エンジンをかける前に、オイル、ガソリンなどの点検をしましたか。
  必ず点検を行ってください。
  （日常点検は、49ページ参照）
- 急な飛び出しを防ぐため、始動時は必ずパーキングロックレバーを上げた状態にしてください。
- スタータスイッチとキックスタータペダルは同時に使用しないでください。
- キックスタータペダルを使用しエンジンがかかったら、すぐにキックスタータペダルから足を離してください。また、使用後キックスタータペダルは、必ず折りたたんでください。

アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”にし、10秒くらい休んでから再びメインスイッチを“ON”にして、スタータスイッチを押してください。
  これはバッテリ電圧を回復させるためです。
- エンジンがかかっているときパーキングロックレバーを上げた状態でスロットルグリップを回さないでください。動力伝達装置が異常摩耗をおこします。
- 無用の空ふかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。

《始動手順》

1．パーキングロックレバーが上げられていることを確認します。
2．燃料コックが“ＯＮ”になっていることを確認します。
3．メインスイッチを“ＯＮ”にします。
4．後輪ブレーキレバーを握ります。
5．スロットルグリップを回さずに、スタータスイッチを押すか、キックスタータペダルをキックします。
「スタータスイッチを５～６秒押しても（キックスタータペダルの場合は、５～６回キックしても）エンジンがかからない」このような場合は、スロットルグリップを少し回すとかかりやすくなります。
6．エンジンがかかったら、回転がスムーズになるまでパーキングロックレバーをあげたままスロットルグリップを回さずに暖気運転します。（普通30秒ぐらい、特に寒いときは２～３分ぐらい）

アドバイス
- エンジンが回転しているときスタータスイッチを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

走りかた

走行前に、キックスタータペダルは完全に納まっているか確認してください。

1．後輪ブレーキレバーを握り、パーキングロックレバーを下げます
2．車を左右に軽く動かして、スイングロック機構が解除されていることを確認します。
3．後輪ブレーキレバーを放し、スロットルグリップをゆっくり回せば車はゆっくりと走り出します。

アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにHonda販売店で調べましょう。

知　識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。
この車は乗り初めてから100 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

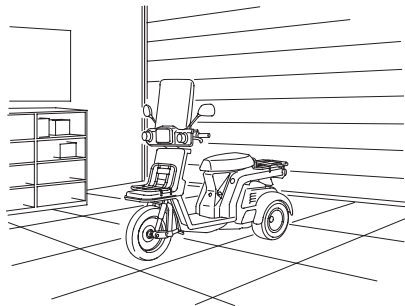
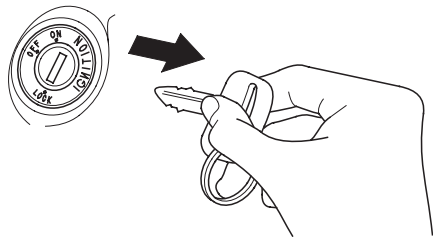
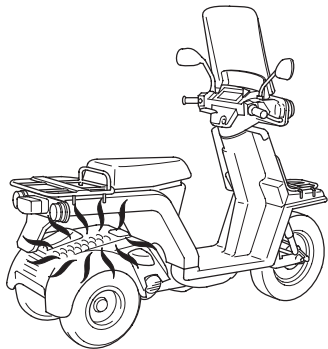
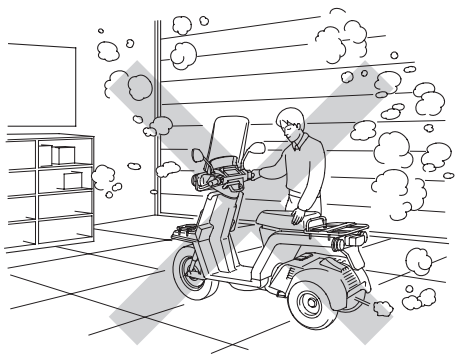
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。

- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

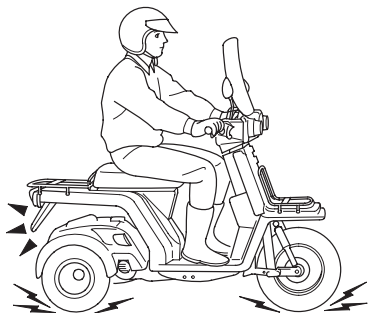
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

メンテナンスを安全に行うために

- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、パーキングロックをかけて行ってください。

- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

メンテナンスを安全に行なうために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法に準じて１日１回の日常点検と６か月、12か月毎の定期点検整備を設けてあります。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備,未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について

新車から1か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。
お買いあげのHonda販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。
また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。
純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求めは、Honda販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検は、お車を使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。
下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。54 ページ以後を参照してください。
また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の21ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

- ●ブレーキ
  - ・レバーの遊び
  - ・ブレーキのきき具合
- ●タイヤ
  - ・空気圧
  - ・亀裂、損傷
  - ・異状な摩耗
  - ・溝の深さ(※)
- ●エンジン
  - ・エンジンオイルの量(※)(2サイクル車)
  - ・かかり具合、異音(※)
  - ・低速、加速の状態(※)
- ●灯火装置及び方向指示器
- ●運行において異状が認められた箇所

(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期(長距離走行前や洗車時、給油時等)に行う項目です。

日常点検

メンテナンス部品配置図

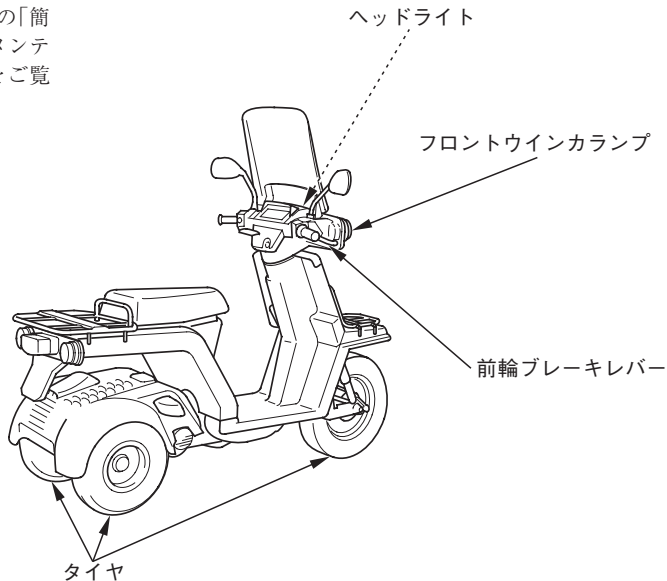
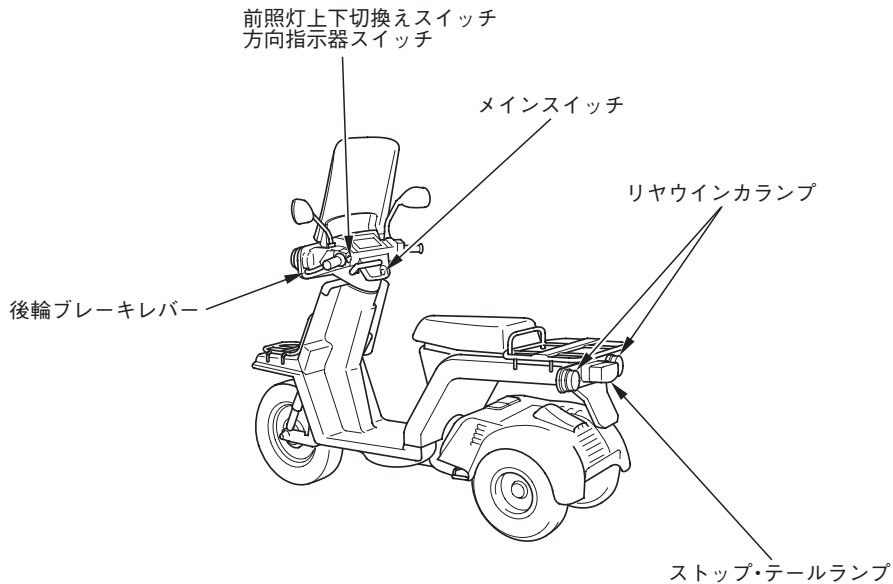
点検の方法･要領は､取扱説明書の｢簡単なメンテナンス｣および別冊｢メンテナンスノート｣の21ページ以後をご覧ください。

ヘッドライト

フロントウインカランプ

前輪ブレーキレバー

タイヤ

前照灯上下切換えスイッチ
方向指示器スイッチ
メインスイッチ
リヤウインカランプ
後輪ブレーキレバー
ストップ・テールランプ

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設けられた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目（または、1,000 km時）に行う点検があります。
また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。
点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。
- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、90ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6か月点検項目は、次ページにあります。
点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”（25ページ）をご覧ください。

６か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の25ページをご覧ください。

項目	内容
●点火装置	・スパークプラグの状態
●エンジン本体	・排気ガスの状態 ・エアクリーナエレメントの汚れ、詰まり
●潤滑装置	・エンジンオイルの漏れ
●クラッチ	・クラッチの作用
●トランスミッション	・オイルの漏れ、量
●ブレーキペダル及びブレーキレバー	・遊び ・ブレーキのきき具合
●ブレーキドラム及びブレーキシュー	・ドラムとライニングのすき間
●ホイール	・タイヤの状態 ・ホイールのボルト、ナットの緩み

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

前輪ブレーキ

《ブレーキレバーの遊びの点検》

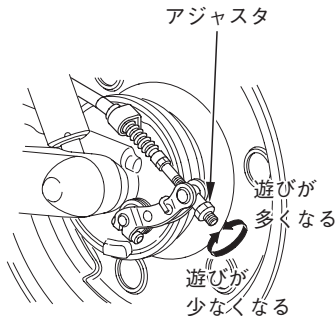
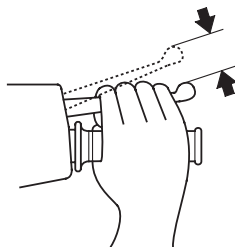
抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

前輪ブレーキレバーの遊び：10－20 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

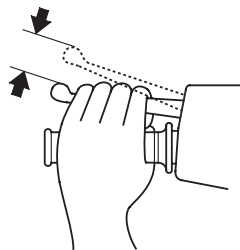
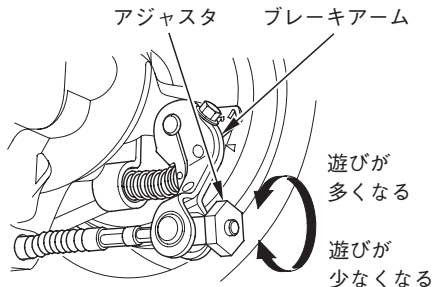
調整のしかた

アジャスタを半回転づつ回し、遊びを調整します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

後輪ブレーキ
《ブレーキレバーの遊びの点検》
抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。
後輪ブレーキレバーの遊び：10－20 mm

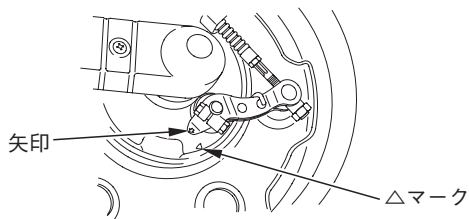
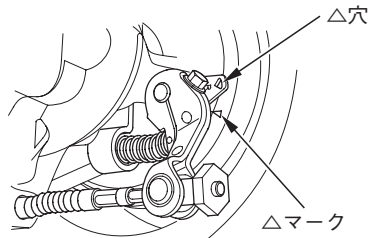
規定の範囲を越えている場合は調整してください。

調整のしかた
右側のアジャスタを半回転させたら左側も半回転させるというように、左右のアジャスタを半回転づつ同じ方向に回して遊びを調節します。その後、左右のブレーキアームを指で押して、ブレーキアームに左右ほぼ同等の遊びがあることを確認します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

《右側アジャスタ》(左右供)

前輪・後輪ブレーキ

《ブレーキシューの摩耗の点検》

ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケータの矢印(前輪)または△穴の頂点(後輪)とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。
ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

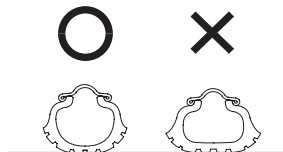
《前輪ブレーキ》

《右側後輪ブレーキ》(左右共)

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。
常に適正な空気圧を保ってください。
また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

⚠警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

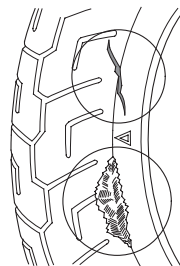
《空気圧の点検》
タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。
タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

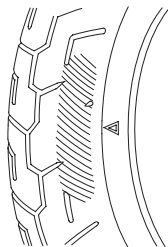
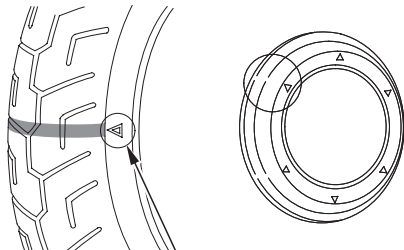
走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

タイヤの空気圧

前　　輪	150 kPa (1.50 kgf/cm²)
後　　輪	125 kPa (1.25 kgf/cm²)

《亀裂と損傷の点検》
タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

《異状な摩耗の点検》
タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。

《溝の深さの点検》
溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(スリップサイン)により確認します。
ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

《交換タイヤの選択について》
タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。
指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。
タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	3.50 － 10 41J チューブ付き
後輪	サイズ	130 / 90 － 6 53J チューブ付き

⚠警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。
そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

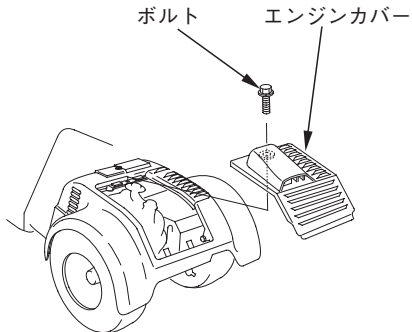
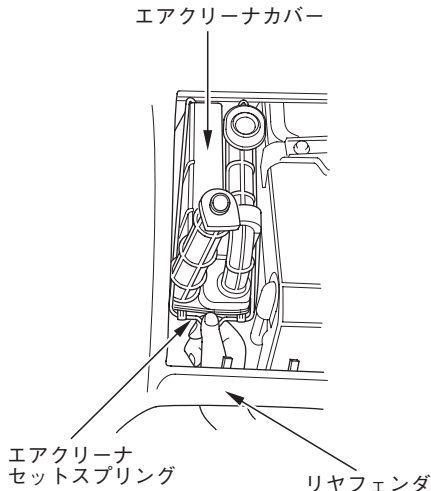
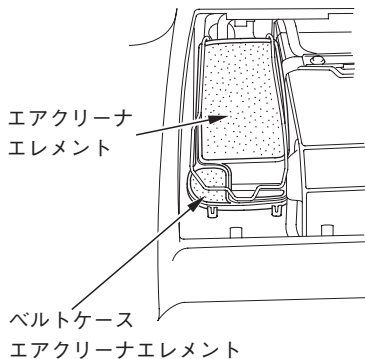
タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

エアクリーナ

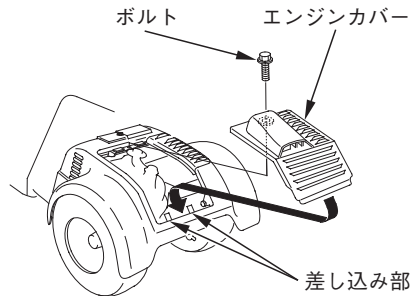
この車には、ウレタンフォームにオイルを含ませたエアクリーナエレメントが装備されています。
６か月毎に点検してください。

《エアクリーナエレメントの取付け、取外し》

取外し

１．ボルトを外し、エンジンカバーを取外します。

２．リヤフェンダの下側より手を入れ、セットスプリングを下方に押しエアクリーナケースから外して、エアクリーナカバーを取外します。

3．エアクリーナエレメントを取外します。

取付け

取付けは、取外しの逆手順で行います。

- エアクリーナカバーを確実に取付け、セットスプリングで固定してください。
- エンジンカバーはリヤフェンダ差し込み部へ取付け、ボルトを確実に締付けてください。

アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

《エアクリーナエレメントの点検》

エアクリーナエレメントを取外し、汚れ、詰まり、損傷などがないかを目視などにより確認します。

- 汚れがひどい、詰まりがある場合は、清掃してください。
- 損傷がある場合は、交換してください。

《エアクリーナエレメントの清掃》

ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。

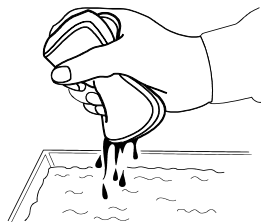
1．エアクリーナエレメントを取外します。
2．エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、絞ってから乾いた布でつつみ、さらに絞ります。
3．きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。

推奨オイル

Honda純正オイル（4サイクル二輪車用）

	ＪＡＳＯ T 903規格	ＳＡＥ規格	ＡＰＩ分類
ウルトラＧ１	ＭＡ	10W－30	ＳＪ級

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

JASO T 903 規格（二輪車用オイル規格）：MA
SAE規格：10W－30
API分類：SG、SH、SJ 級相当

ベルトケースエアクリーナの点検、清掃

エアクリーナエレメントの点検時には、ベルトケースエアクリーナエレメントの点検清掃もいっしょに行ってください。

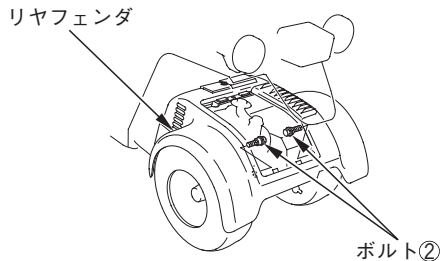
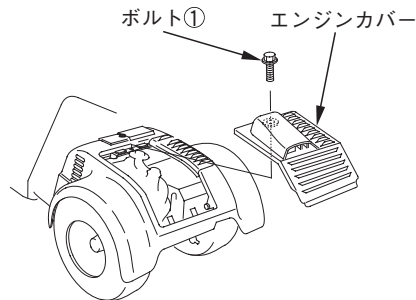
1．ベルトケースエアクリーナエレメントはエアクリーナエレメントの近くにあります。
2．ベルトケースエアクリーナエレメントを取外し、水で洗います。
3．エレメントを乾かし、取付けます。

アドバイス

● エレメントは完全に乾かしてから取付けてください。また、オイルには浸さないでください。

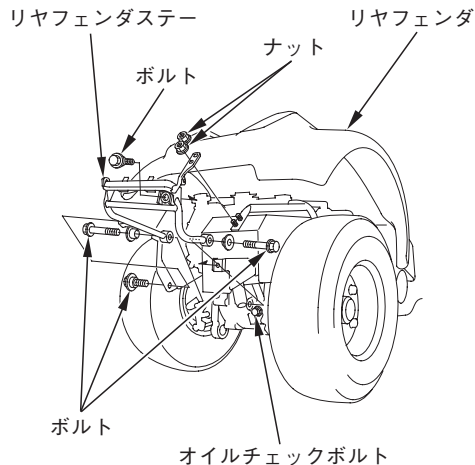
ファイナルリダクション

《オイル量の点検》

1．平坦地に車体を置きパーキングロックレバーを上げます。
2．ボルト①を外し､エンジンカバーを取外します。
3．ボルト②を外し､リヤフェンダを持ち上げます。

4．ボルト、ナットを外し、リヤフェンダステーを取外します。
5．エンジン停止２～３分後にオイルチェックボルトを外します。
6．オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認します。
油面が低い場合は、ボルト穴からオイルが出てくるまでオイルを補給してください。

補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

7．オイルチェックボルトを確実に取付けます。

アドバイス
- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。

推奨オイル

Honda純正オイル（４サイクル二輪車用）

	ＪＡＳＯ Ｔ903規格	ＳＡＥ規格	ＡＰＩ分類
ウルトラＧ１	ＭＡ	10W－30	ＳＪ級

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

JASO T 903 規格（二輪車用オイル規格）：MA
SAE規格：10W－30
API分類：SG、SH、SJ 級相当

アドバイス

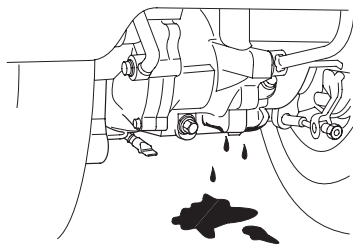
- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

交換時期

４年ごと

ファイナルギアオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

《オイル漏れの点検》

ファイナルリダクションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

バッテリ

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
バッテリのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリの取扱い

- バッテリ取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリ液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
  バッテリの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

⚠警告

バッテリには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目に付着したとき
  －コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  －電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  －水、または牛乳を飲んでください。

応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

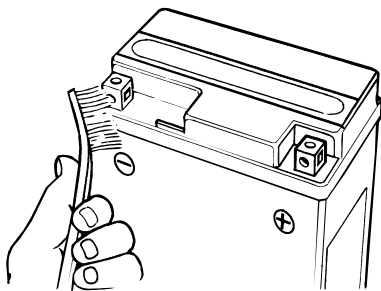
《バッテリターミナル部の清掃》

清掃のしかた

バッテリを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパで磨きます。

清掃後、バッテリを取付けます。
その後、ターミナル部にグリースを薄く塗ります。

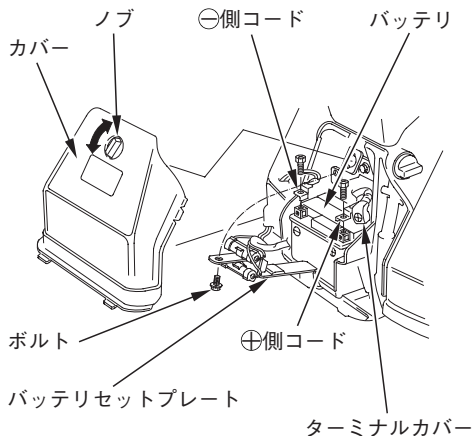
バッテリを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。

《バッテリの取付け、取外し》

取外し

1．メインスイッチをＯＦＦにします。
2．カバーのノブを右へ回し、そのまま手前に引き出して、カバーを取外します。
3．㊀コード端子のボルトを外して、㊀側コードを外します。
4．ターミナルカバーをめくり、㊉側コード端子のボルトを外して、㊉側コードを外します。
5．バッテリセットプレートのボルトを取外し、バッテリセットプレートを図の様に倒します。
6．バッテリを取出します。

取付け

● 取外しの逆手順でバッテリを取付けます。

バッテリコードは、必ず先に㊉側より取付けてください。
また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

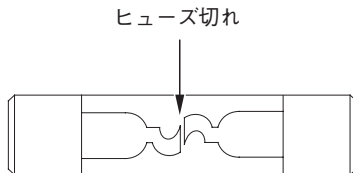
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

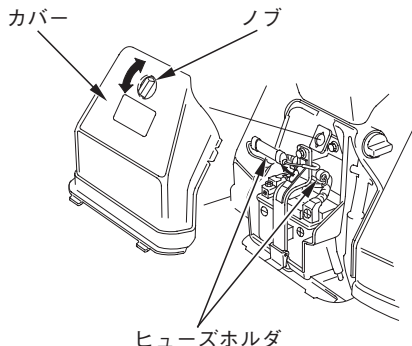
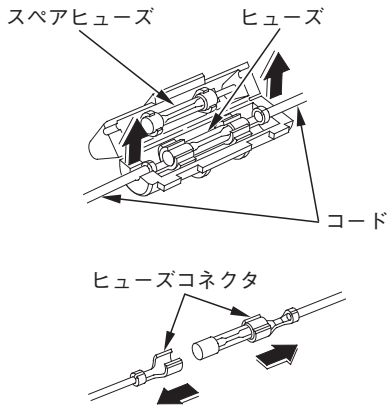
交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

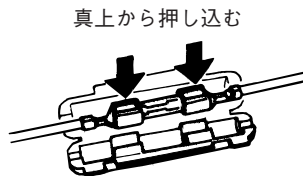
アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Hondaアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。

取外し

１．メインスイッチがＯＦＦになっていることを確認します。

２．カバーのノブを右へ回し、そのまま手前に引き出して、カバーを取外します。

３．ヒューズはバッテリ近くのヒューズホルダにセットされています。ヒューズホルダを取外します。

４．ヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタをスライドさせます。
ヒューズコネクタをひろげないように注意して取外します。

取付け

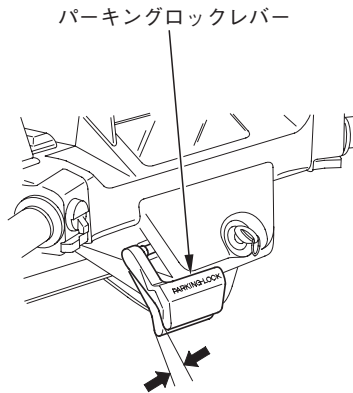
１．ヒューズをヒューズコネクタに取付け､ヒューズが容易に横方向に動かないことを確認します。
２．ヒューズ両端を真上から押し込んでヒューズホルダに組付けます。
３．ヒューズホルダを閉じ､バッテリセットプレートの取付け位置に格納します。
４．カバーを取付けます。

パーキングロックレバー

《遊びの点検》

1．平坦で足場のしっかりした場所に駐車し、車止めを行います。
2．メインスイッチにキーを差込んで“ＯＦＦ”の位置にします。
3．車体本体を保持しながら、パーキングロックレバーを下げます。
4．抵抗を感じるまで、手でパーキングロックレバーを上げ、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

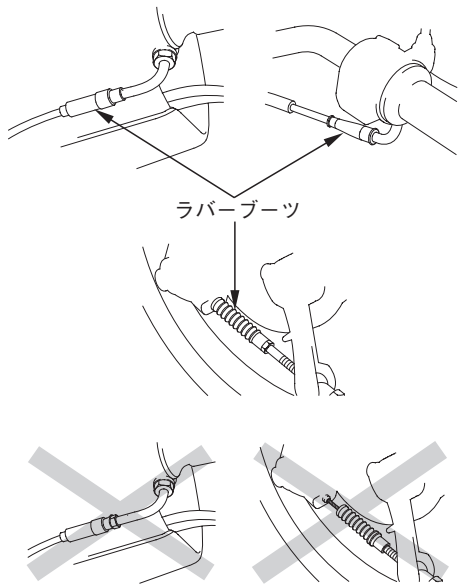
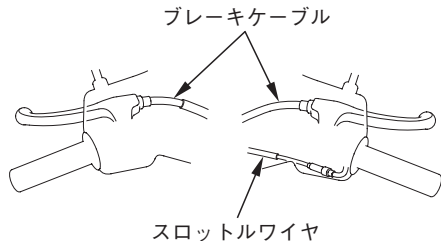
レバーの遊び：5－10 mm

5．遊びの量の確認後、パーキングロックレバーを上げます。

規定の範囲を越えている場合は、調整が必要です。Honda販売店にご相談ください。

ケーブル・ワイヤ類

《ラバーブーツの点検》

ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

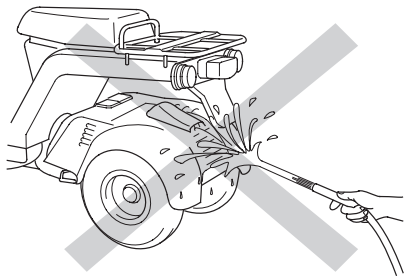
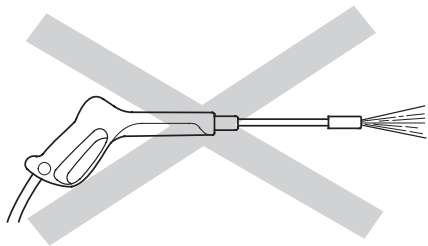
洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。

《ケーブル・ワイヤ類の点検》
ブレーキレバー、スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、ブレーキレバー、スロットルグリップから手を放したときにレバーやグリップがスムーズに戻るかを点検してください。また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合はHonda販売店にご相談ください。

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

《洗車のしかた》

1．水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。

2．柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行なってください。

- 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
  特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。
- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、吸気口に水を入れないでください。水が入ると始動不良の原因になったり、動力伝達機構を損傷します。

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。
  また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。

ウィンドスクリーンの取扱い

《装備車のみ》
ウインドスクリーンは安全視界を確保するためにいつもきれいにしてください。また、ウインドスクリーンにアクセサリを取付けないでください。運転の妨げになるばかりでなく、アクセサリの吸盤がレンズのはたらきをして、火災などの思わぬ事故をまねくことがあります。

ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目をお守りください。

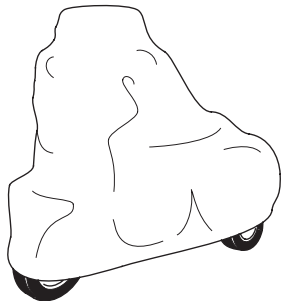
- ウインドスクリーンの表面が氷結している時は、スクレーパ、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は使用せず、多量のぬるま湯をかけ氷解させてください。解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、有機溶剤を含んでいますのでウインドスクリーンやルーフに悪影響を与えます。

- ウインドスクリーンを清掃するときは、傷がつきやすいので多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
  汚れのひどい時は、スポンジに薄めた中性洗剤を含ませ汚れを落とし、さらに十分な水で洗剤を洗い流してください。
  (洗剤成分が残っていると、ウインドスクリーンに亀裂が発生する場合があります。)乾いた状態で拭くと、ウインドスクリーンに傷をつけますので避けてください。

- ガソリン、シンナーなどの有機溶剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ウインドスクリーンに悪影響を与えますので使用しないでください。
- コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ウインドスクリーンに傷をつけます。
- 油膜とり剤、はっ水剤などのケミカル用品は、使用しないでください。有機溶剤を含んだケミカル用品は、ウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液などの化学物質がメータ、ウインドスクリーン、ボディカバーなどの樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知　識
- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。

長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 保管する前に各部にワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は⊖側ターミナルを外してください。

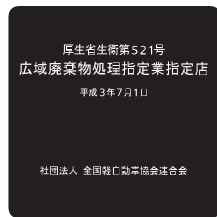
地球環境の保護について

お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

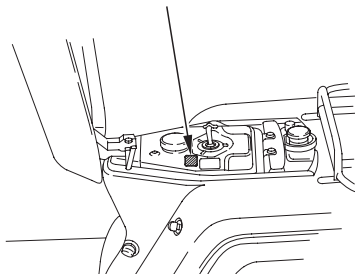
《廃棄二輪車取扱店》

廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。

廃棄二輪車取扱店の証

《二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金》
この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。
マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。(30ページ参照)

二輪車リサイクルマーク

《二輪車リサイクルマークの取扱い》

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。

マークは車体から、剥がさないでください。

マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の(財)自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。

廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

http://www.jarc.or.jp/

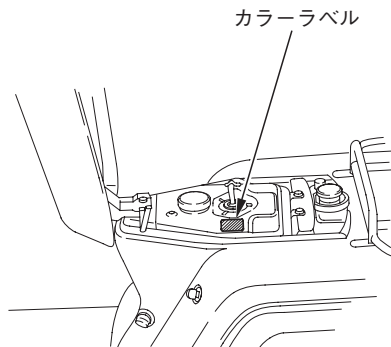
二輪車リサイクルコールセンター

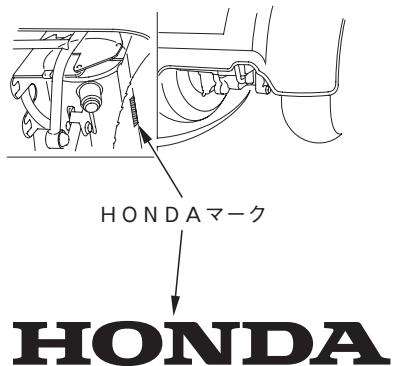
電話番号　03-3598-8075

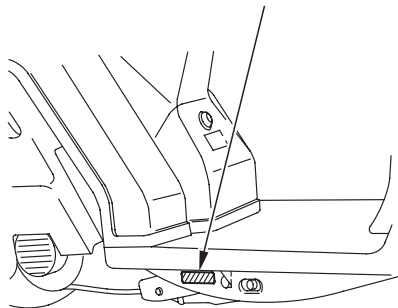
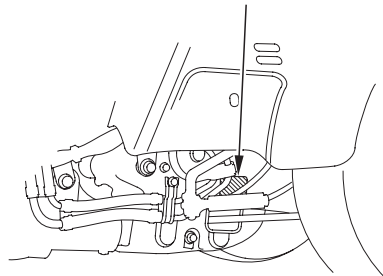
受付時間　9:30～17:00

(土日祝日、年末年始等を除く)

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは､カラーラベルに記載されているモデル名､カラーおよびコードをお知らせください。
カラーラベルは､燃料タンクの上面に貼ってあります。

マフラの純正マークについて

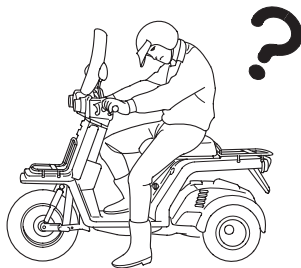
マフラの後部には、Honda純正部品を表す
“ＨＯＮＤＡ”マークが刻印されています。
“ＨＯＮＤＡ”マークは、マフラ後部にあり、車体
下側より確認できます。

フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。
また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- スタータモータは回りますか。
  バッテリあがりで、スタータモータが回らないときはキックによる始動を試みましょう。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

		ウインドスクリーンなし	ウインドスクリーン付き
型式		BB－TD01	
長さ		1,700 mm	
幅		640 mm	
高さ		1,030 mm	1,405 mm
軸距		1,205 mm	
原動機種類／総排気量		ガソリン・2サイクル／0.049 ℓ	
車両重量		99 kg 《 98 kg 》	100 kg
乗車定員		1人	
タイヤサイズ	前輪	3.50 ー 10 41J	
	後輪	130 / 90 ー 6 53J	
最低地上高		85 mm	
燃料消費率※		45.5 km/ ℓ （車速30ｋｍ／ｈ　定地走行テスト値）	44.6 km/ ℓ （車速30ｋｍ／ｈ　定地走行テスト値）
最小回転半径		1.7m	
圧縮比		7.0	
最高出力		3.7kW(5.0PS) / 6,500rpm	
最大トルク		5.6N•m(0.57kg•m) / 6,000rpm	
燃料タンク容量		5.0 ℓ	

※ 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

《　》内はリヤキャリアなし車

		ウインドスクリーンなし		ウインドスクリーン付き
点火型式		CDI式・マグネット点火		
点火時期		BTDC18° / 1,800 rpm		
アイドリング回転数		1,800 rpm		
点火プラグ	NGK	BR7HS	BR6HS BR6HSA	BR8HS BR8HSA
	DENSO	W22FSR	W20FSR W20FR－L	W24FSR W24FR－L
バッテリ		12 V － 3 Ah		
クラッチ形式		乾式多板シュー式		
減速比	第一	3.416		
	第二	3.538		

サービスデータ

前輪ブレーキレバーの遊び		10－20 mm
後輪ブレーキレバーの遊び		10－20 mm
パーキングロックレバーの遊び		5－10 mm
タイヤ空気圧	前　　輪	150 kPa (1.50 kgf/cm²)
	後　　輪	125 kPa (1.25 kgf/cm²)
ファイナルギアオイル量	全　容　量	0.40 ℓ
	オイル交換時	0.39 ℓ
ヒューズ		10 A，7 A
点火プラグの点火すき間		0.6－0.7 mm
エアクリーナエレメント	型　式	ウレタンフォーム式
電球(バルブ)	ヘッドライト	12 V － 30 / 30 W
	ウインカランプ	12 V － 10 W
	ストップ･テールランプ	12 V － 18 / 5 W

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-086819（オーハローバイク）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00

〒351－0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日　②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日　④販売店名